



熊谷市長 小林 哲也

HOSPI

文化と伝統の薫るまち

熊谷市は、古くは江戸時代に中山道の宿場町として栄え、現在も鉄道網や道路網が発達した要衝であり、県北における中心都市としての歩みを進めています。国宝に指定されている^{かんぎいんしょうでんどう}歎喜院聖天堂を始め、関東一の祇園と称される熊谷うちわ祭や、「日本さくら名所100選」に選ばれた熊谷桜堤など、様々な魅力にあふれ文化と伝統が感じられるまちです。

また「スポーツ熱中都市」を宣言する熊谷市は、スポーツによるまちづくりも進めており、2019年にはラグビーワールドカップ2019™の開催都市の一つとして3試合が行われました。この大会では、熊谷のおもてなしが多くの方から称賛を頂くこととなりましたが、培われた経験は、現在本市で活動するスポーツチームとの連携や、大会・合宿などで熊谷を訪れる皆さまへのサポート体制の整備へとつながり、様々な形でレガシーとして受け継がれています。

持続可能で魅力あふれるまちづくりを推進していくために、オール熊谷でワンチームとなりスクラムを組む「スクラム！クマガヤ」のスローガンのもと、更なる魅力の創出に取り組んでまいります。



スポーツを通じたパートナーシップ

熊谷市では、平成18年に「熊谷市スポーツ熱中都市宣言」を行い、【実践】【応援】【協力】の合い言葉の下、一人ひとりがスポーツに熱中し、それぞれのスタイルに応じてスポーツに関わる社会の実現を目指してスポーツ振興施策を推進しています。

その中で、関連団体との連携・協働を進めており、地域に根付いた活動をするスポーツチームと協力しながら、スポーツによるまちづくりを進めています。